地域医療連携室だより
Vol.142
発行元　地方独立行政法人
市立大津市民病院　地域医療連携室
住　所　〒520-0804
滋賀県大津市本宮二丁目９番９号
電　話　077-526-8192
ＦＡＸ　077-522-0192　発行日：2021年３月１日
市立大津市民病院　検索

だより内に　　が、5ヶ所登場しています。ぜひ探してみて下さい。疫病退散。

乳腺外科のご紹介

乳腺部門　診療部長：橘（たちばな）　強（つよし）

外科・消化器外科・乳腺外科の橘と申します。

現在は消化器外科を引退し乳腺疾患の診断治療に専念しています。乳腺外科は消化器外科とは異なり、診断から治療までそのすべてを担うため、それはそれは奥深い分野で、日々研鑽の毎日です。

乳腺外科では、昨年 11 月より、京都府立医科大学附属病院　乳腺外科から非常勤医師として 森田（もりた）翠（みどり）　先生に毎週水曜日午前の外来を担当していただいております。このため、水曜日午前中に関しては、女性放射線技師によるマンモグラフィ、女性医師による診断と女性が安心できる診療体制を提供できるようになりましたので、ご紹介いただきますよう伏して御願い申し上げます。

また、本年 3 月から新しいマンモグラフィ装置 AMULET Innovality を導入し、3D トモシンセシスによる診断を開始すると同時に、乳房超音波装置も新しく Aplip a Verifia を導入しました。そのため早期乳癌の発見も今まで以上に可能となり、滋賀県における乳癌診療にさらに貢献できるようになるものと自負しております。

最近、『ブレスト・アウェアネス breast awareness』という概念が注目されています。ブレスト・アウェアネスとは、1990 年代にイギリスから提唱され始め、2000　年代には日本でもいわれるようになりましたが、女性自身がご自分の乳房の状態に日頃から関心をもち、乳房を意識して生活することです。このブレスト・アウェアネスは、以下の項目を実行することが大切です。

① ご自分の乳房の状態を知るために、日頃から見て、触って、感じる
（乳房の健康セルフチェックの習慣）
② 乳房の変化を知る
③ 乳房に変化がないかを意識し、変化を感じたら、放置せず医療機関へ受診する
④ 40 歳になったら、定期的な乳癌検診を受診する

検診に来られた方にはこの概念をお伝えするようにしています。

末筆ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

※マンモグラフィ装置の更新については、同封しております「マンモグラフィ装置更新のお知らせ」に詳しく記載しております。そちらもご覧下さい。

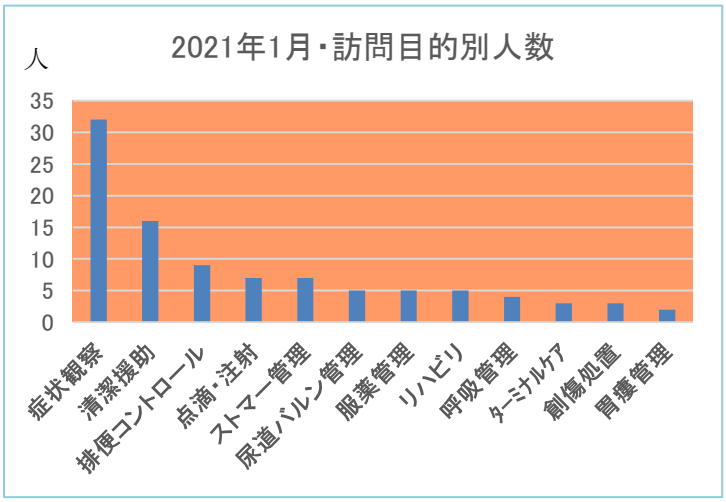
大津市民病院訪問看護ステーション

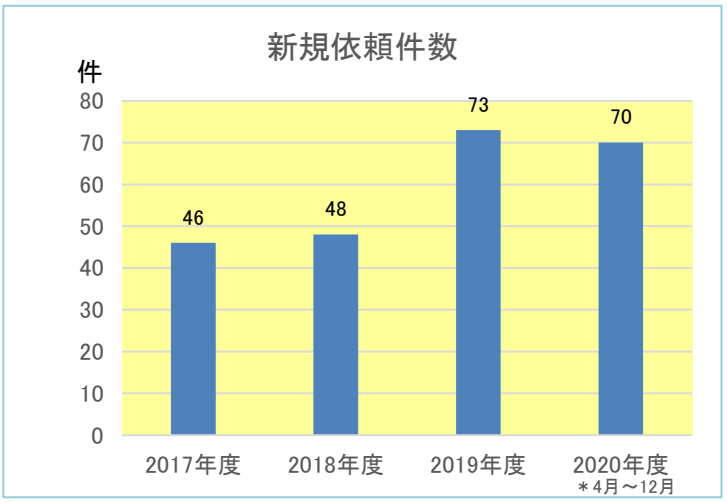
かんばやし　さつき
大津市民病院訪問看護ステーション所長：上林　五月

大津市民病院訪問看護ステーションは、病院別館 1 階エレベーター横に事務所があります。
看護師 9 名、事務員 1 名で、「365 日 24 時間訪問看護の実施」を掲げ、地域の皆様が安心して在宅療養生活を送れるように、訪問看護ステーションを運営しています。

訪問看護師が定期的に訪問し、病状の観察や医療的な管理を行い、住み慣れたご自宅での療養生活をサポートします。24 時間緊急時の対応も行っています。
また、利用者・家族のご希望に寄り添い、在宅医師のご支援をうけ、在宅看取りも行っています。

2021 年 1 月末現在、利用者人数 98 名。月別平均のべ訪問回数 693 回。緊急訪問月平均 25 件。
訪問目的は、症状観察、清潔の援助、排便コントロールなどです。





訪問エリアは、緊急時の対応を考慮し、ステーションから車で 20 分以内を設定しています。大津市・中（藤尾・長等・逢坂・中央）、膳所（平野・膳所）、晴嵐（富士見・晴嵐）、南（石山・南郷）、瀬田（瀬田・瀬田南）となりますが、訪問エリア外地域についても、ご相談をお受けしています。

急性期の医療機関においては、平均在院日数の短縮に伴い、医療依存度の高い高齢者が在宅療養にスムーズに移行できるようサポートが必要です。急性期病院に併設されている訪問看護ステーションとして、病院と在宅医療・介護の架け橋となり、地域の先生方はじめ他職種の方と連携を密にし、「時々病院、ほぼ在宅」の支援となるよう努めています。また今後は、病院の認定看護師・専門看護師・特定行為研修終了看護師と同行訪問し、専門的な知識・技術を提供し、これまで以上に訪問看護の充実に努めてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

連絡先　TEL：077-524-0150

認定看護師の紹介

この度、当院に新たに二人の認定看護師が誕生いたしました！当院にとりまして大変喜ばしいニュースです。

今後の2人のますますの活躍を期待しつつ、本人のコメントとともに紹介させていただきます。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

集中ケア認定看護師：森　俊之（もり　としゆき）

2020年に集中ケア認定看護師を取得し、現在はICUで活動をしております。昨年から世界的に蔓延するCOVID-19肺炎が注目されておりますが、感染症指定医療機関である当院も重症肺炎で運ばれる患者様が増加傾向にあります。人工呼吸器はもちろん体外式心肺補助（ECMO）を使用した治療を行っております。こういった治療は多くのスタッフの協力が必要不可欠であり、共通した知識や技術で観察を行うことが重要となります。その中で実践、指導、教育を通して日々取り組んでいます。

具体的には重症患者様が増えたことによるスタッフ教育が急務のため特定看護師と協力しクリティカル研修を行い、重症管理の経験が少ないスタッフに対して、重症管理における知識や技術の指導を行っています。

その他には院内全体の取り組みとして急変を事前に防ぐために院内迅速対応システム（RRS）の整備を行っています。急変の前に起こる「前兆」を捉え、事前に介入を行うことで重篤化を防ぐシステムです。患者様にとって安心で安全な看護が提供できるように心がけていきたいと思います。

がん化学療法看護認定看護師：柳田　知美（やなだ　ともみ）

がん治療において、薬物療法は手術療法、放射線療法と並ぶ重要な治療のひとつです。薬物療法とひとくくりにいっても、使用される薬剤は従来の殺細胞性抗がん剤から分子標的薬、ホルモン関連薬など多岐にわたります。2018 年にはノーベル賞の受賞をきっかけにして免疫チェックポイント阻害薬に大きな注目が集まりました。そして、時代はがんゲノム医療へと移り変わろうとしています。

使用する薬剤によって出現する副作用は様々であり、治療を継続していくためにはそれらの症状のコントロールが必要不可欠です。治療の場が外来に移行している今、患者さん自身がケアを行えるように支援していくことが重要であると実感しています。

私は 2020 年にがん化学療法看護認定看護師の認定を受けました。現在は病棟勤務を行い、主に消化器や乳腺の薬物療法に携わっています。微力ではありますが、地域のがん看護の質向上に向けて活動していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

※マスクは外して描いています

クイズの答え：1 ページ目　右下/2 ページ目　左下/3 ページ目　森看護師写真横/右下/4 ページ目　右下

地域医療連携室の FAX 回線を増設しました

この度、地域医療連携室の FAX 回線を増設いたしました。今まで、回線混雑時には「FAX が届かない」とのご意見をいただくことがありましたが、今後はそれが解消されつながりやすくなります。FAX 番号は変わりませんので、今後ともご紹介をよろしくお願いいたします。

地域医療連携室直通 FAX 番号：077-522-0192

地域医療連携室/入退院センターより

入退院センターで退院調整を担当しております MSW の森本と申します。早いもので、大津市民病院に勤務するようになって 10 年以上が経過しました。

働きはじめた当初は地域に出て活動する機会はほとんどありませんでしたが、最近では膳所・石山エリアの多職種連携チームの活動に参加させていただき、多職種がしっかり連携し力を合わせて支援することの大切さを日々感じています。

地域の先生方と直接顔を合わせてお話しする機会はあまり多くはありませんが、今後ともよい連携ができるよう努力していきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

地域医療連携室：森本（もりもと）　郁（あや）